

昭和56年度入庁。
村山総合支庁産業経済部
産業経済企画課観光振興室長、
教育庁文化財保護推進課長、
子育て支援課長、子育て推
進部次長を歴任後、
平成27年度から現職。

日頃から県産品をよく購入
するという石川事務局長。最
近は最上伝承野菜「勘次郎胡
瓜」のジャムをマルシェで購
入したそうです。ちなみに、
この日のジャケットも県産ニ
ットを使ったものでした。

石川 由美 監査委員事務局長



地域で頑張っている人を応援したい

これまで10数か所の職場を経験してきましたが、あらためて振り返ってみると、特に印象に残っている職場、仕事は3つあります。

① 初めて係長になった「県立図書館」

それまでは本庁で勤務していたので、県民の方と直接接することのできる職場は新鮮でした。

カウンターでの業務もあり、私は主に調査相談関係の業務を担当していました。例えば、県民の方が探している本が、県立図書館には「無い」ということもあります。「ありません」と言ってしまうと、それまでですが、どういった本が図書館にあるのかわかってくると、そういう場合に、「お探しの本はございませんが、別の本で参考になるものがあります」とお伝えできるようになってくる。実際、そうやって対応した際に、とても喜んでいただいたことがありました。一工夫をして、ニーズに応えるということの大切さを実感した職場が県立図書館でした。

② 文化財を「守り伝えている人」との出会い

文化財の保護に、係長級、課長級の2回携わりました。(現・文化財生涯学習課)山形には、魅力ある資源が本当にたくさんあるんですよ。「全国豊かな海づくり大会」(平成28年9月)の際には、天皇后陛下が松ヶ岡開墾場を御視察されました。私は文化財関係の仕事をしているときに初めて松ヶ岡開墾場を訪れたのですが、タイムスリップしたような気分になれる空間で、とても感動したのを覚えています。また、文化財に関する仕事を通して、寒河江市の慈恩寺の仏像や鶴岡市の春日神社に

奉納される黒川能など、ほかにも素晴らしいものが山形にはたくさんあるんだと改めて知ることができました。そして、そういった文化財には必ず「守り伝えている人」がいるんですよね。山形の魅力ある文化財、それを守り伝える方々について、皆にもっと知ってもらいたい、関心を持ってもらいたいという思いが強くなりました。

③ やまがたの観光振興に携わって…

主査、課長補佐として、また、村山総合支庁では観光振興室長として、観光振興の仕事も経験しました。観光の分野では、各地域で頑張っている方々がたくさんいらっしゃって、仕事を通してそういった方々にお会いできたのは、とても貴重な経験でした。ある方からは、「人と人が会うことで化学反応が起きる」という話を聞いたことがあります。本当にそのとおりなんですよ。例えば、Aという温泉地とBという温泉地のそれぞれの方々がつながることによって、新しい魅力が産み出されたということもあります。観光振興に関する仕事の際に感じた、「地域で頑張っている人を応援したい」という気持ちを今も大切にしています。

県職員一人ひとりが山形県の「セールスパーソン」

「県民の方々のため」というのが1番の基本であり、そのために、現場を知る、県内のさまざまな場所や人を知るというのは、常に心がけていますね。

それから、仕事をするうえで、前例にとらわれず、「もう一工夫できないかな。本当に変えられないのかな」と考える姿勢を大切にしています。制度などを変えるためには、段階を踏んで説明をするなど、やらなければなら

ないことも多くあるかと思いますが、「ずっと同じようにやっていること」に対して、「本当にそれが1番良い方法なのだろうか」と向き合うこと、必要があれば手を加えていくことも大切だと思います。

また、知事はトップセールスに力を入れていますが、仕事でもプライベートでも県職員一人ひとりが山形県の「セールスパerson」だと思っています。山形の良いところを多くの人に知ってもらいたいと思いますし、まずは、県内の方々に自分の地域の魅力に気づいてもらえるようにしたいという思いがあります。

以前、仕事で国際交流に携わっていたこともあったので、プライベートで山形県国際交流協会の企画に顔を出すこともあるのですが、英会話のスキルだけでは「会話」ってできないものなんですよね。今後さらに国際化が進んでいくと思いますが、いろいろなことに興味を持ち、「山形のこんな良いところを知っている」、「最近こんな素敵な映画を観た」、「こんな本を読んだ」等、自分自身の「何か」を持つことが大きな強みになると思います。



《休日に、アートイベントの出展者と》

一人で抱え込まずに、皆で頑張っていくという姿勢

まずは、自分で対応を考えることももちろん必要ですが、考えたうえで一人で抱え込まずに相談することも大事です。課長級のときのことで、担当職員がとても一生懸命データを集めたり資料を作ってくれたりする姿を見て、「私もそれに応えて頑張らなきゃ」と思った経験があります。日頃のコミュニケーションの中で、共通の目的に向けて、一緒に頑張っていく意識を持つということが必要なんです。

また、先ほども少しお話ししましたが、仕事をしていくうえで、「現場を知る」ということがとても重要になってきます。観光振興に関する仕事に携わっているときは、特に何度も市町村に足を運びました。市町村ごとにそれぞれの魅力がありますから、そういった市町村同士をつなぐのが県の役割であり、そのために、まず、その場

に行き、担当者ややりとりをして、各市町村のことを「知る」ということを意識してきました。

仕事をしてきた中で、全てがうまくいったというわけではありませんでしたが、たとえ、うまくいかなかった部分があったとしても、それを踏まえて次善策を考えるように心がけてきました。



《仕事での一場面：局長室にて職員との打合せ》

私のリフレッシュ方法

健康維持もかねて、3、4年前から「ズンバ（ZUMBA）」をやっています。ラテンのリズムで踊るもので、エアロビクスよりもダンスに近い感じですね。元々通っていたスポーツクラブにズンバのクラスがあって、それがきっかけで始めました。運動して、汗を流すのっていいですね。悩みも全部忘れて集中しているので、すごく良いリフレッシュになっています。

そのほかには、高校時代や大学時代の友人、子どもが小さい頃にお世話になった「ママ友」ともランチ会や飲み会をしています。特にママ友との集まりでは、仕事も年齢も違う人たちとお話することで、良い刺激ももらっています。

子育てから得られる気づき

出産したのが30代半ば頃だったので、仕事も面白い時期でした。平日の昼間は仕事をし、帰ってからの時間と休みの日は子ども最優先でした。ここ最近は、県内で開催されるマルシェに行ってみたり、地域のアートイベントに行ってみたりと、自分の興味のある場所を訪れることも増えてきましたが、子どもが小さい頃は、公園めぐりが多かったですね。育児をされていて大変だったという記憶よりも、周りの人に助けってもらったという思い出が多いように感じています。

子どもを持つことで、いろんな世界観が変わった気がします。例えば、子どもを連れていくと、「ここは段差があって危ない」とか、「子ども連れでも観光しやすいところに対してニーズがあるのではないか」とか、そういった目線での気づきが増えました。子育て支援関係の仕事

で、預かり保育や学童保育などについて検討するときは、自分自身の経験も踏まえて考えることができました。

私の場合は、育児と仕事の切替えによって、どちらに対してもうまく向き合えたような気がします。

仕事を通して出会った方々から学んだこと

◎ 「人と人をつなぐ」「勉強する気持ちを忘れない」

自分の持っている情報を出し惜しみせず、「この地域に行くなら、この方と会ってくると良いと思う」と、人を紹介し、つないでくれる上司がいらっしゃって、大変お世話になりました。また、その方は、非常に勉強熱心で、メモを事細かに取っていらっしゃるのも印象的な方でした。どんな立場になっても、常に勉強するという姿勢もこの方から教わりました。

◎ 「自分が受けた恩を後輩たちへ返していく」

育児をしているときは、早く帰らないといけない場合がありますし、どうしても仕事において周りに負担をかけてしまっているという気持ちになりがちです。そんなときに、私がある人から言われたのは、「周りの人に支えてもらった分、①仕事を頑張ること、②次の世代、後輩たちのときに自分が周囲に支えてもらったように、支えていくこと」でした。

育児だったり、何か自分がチャレンジしたいことだったり、そういったことがあれば、きっと周りが応援してくれると思いますし、支えてくれると思います。そして、自分が支えてもらった分を後輩たちのときに返していけたら、良い流れができていくのではないかと思います。

ほかに、「昔気質で部下の話を真剣に受け止めてくれる上司」、「専門的な知識・技術を活かし、前向きに仕事に取り組んでいる、私の親と同世代の方々」等々、多くの方との出会い、そこから仕事への姿勢、考え方を学んできたように感じています。

今後の目標

- ◎ イクボスとして、男性も女性も働きやすい環境をつくること
- ◎ プライベートでは、予定を先送りしないで、いろいろな人に会うこと、「いつかやりたい」と思っていることに挑戦すること

県内には、地域づくりに熱心に取り組んでいて全国的に知られている方がたくさんいらっしゃいます。そういう方のお話を聞く集まりなどが、実は頻繁に開催されています。しかも、そのような企画は、地域づくりに取り

組んでいる方で、特に若い世代の方によって、企画されています。そういった方々を応援したいと思いますし、自分自身が「すごい」と思ったことを県職員や友人にもつないでいけたらと考えています。



《最上の伝承野菜・甚五右衛門芋（じんごえもんいも）をあじわうツアーで収穫体験》

ロールモデル集を読んでいる人たちへのメッセージ

～ワーク・ライフ・「ソーシャル」～

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉はよく耳にしますが、ある方から、「ワーク・ライフ・ソーシャル」という言葉を紹介されたことがあります。ここで言う「ソーシャル」は、地域、PTA、趣味の仲間といったつながりを意味しているそうです。そういったつながりや関係性を意識し、大切にしていくことが、一人ひとりの人生をより豊かにしてくれるのかなと思います。

～その年代でやってみたいことにチャレンジ～

気負わずにいろんなことにぜひチャレンジしてみてください。年代ごとにやってみたいことが出てくると思います。私自身も年代によって、「頑張りたい」と思うものが変化してきたように感じています。

また、男女問わず、「この人の、こういう仕事の仕方は良いな」と思えるところを取り入れることを心がけてみてはどうでしょうか。

仕事でもプライベートでも様々なことにチャレンジしていらっしゃる石川事務局長の姿に刺激を受けた方も多いのではないのでしょうか。

